

泊発電所3号炉 ヒアリングコメント回答リスト

(有効性評価 7.1.3 原子炉補機冷却機能喪失)

泊発電所3号炉審査資料	
資料番号	資料4-3
提出年月日	令和5年3月8日

ID	No	コメント内容	ヒアリング日	対応状況*	回答完了日	回答概要	資料反映箇所	積み残し事項の回答予定時期
221124-10	1	事象判定プロセスの指摘事項など、7.1.1の内容について水平展開を図ること。	R4.11.24	本日回答		事象判定プロセスの指摘事項など、他の事故シーケンスの内容について水平展開を図りました。	資料全般	
221124-11	2	全体) 1次冷却材、1次冷却系を適切に使い分けること	R4.11.24	回答済	R4.12.19 ヒアリング	1次冷却材、1次冷却系を使用する場合には以下で統一する。 ・1次冷却材圧力 ・1次冷却材温度 ・1次冷却系保有水量 【変更前】 1次冷却材の保有水量の減少 【変更後】 1次冷却系保有水量の減少	第426回ヒアリング 資料2-1「泊発電所3号炉 重大事故等対策の有効性評価 7.1.3 原子炉補機冷却機能喪失 (SAE713 r.6.0)」 ・ p. 7.1.3-1 第426回ヒアリング 資料2-2「泊発電所3号炉 重大事故等対策の有効性評価 比較表 7.1.3 原子炉補機冷却機能喪失 (SAE713-9 r.6.0)」 ・ p. 1, 2	
221124-12	3	P2) 「本事故シーケンスグループは、”原子炉補機冷却機能”が喪失・・・”代替炉心注水機能”に対する・・・に期待する」との記載について、対応が取れるように記載の適正化を検討すること。(BWRでの記載を参考)	R4.11.24	回答済	R4.12.19 ヒアリング	以下のとおり記載の適正化を行った。 【変更前】 このため、重大事故等対策の有効性評価には、代替炉心注水機能に対する重大事故等対処設備に期待することが考えられる。 【変更後】 このため、重大事故等対策の有効性評価には、原子炉補機冷却機能が喪失した場合においても炉心冷却が可能な重大事故等対処設備に期待することが考えられる。	第426回ヒアリング 資料2-1「泊発電所3号炉 重大事故等対策の有効性評価 7.1.3 原子炉補機冷却機能喪失 (SAE713 r.6.0)」 ・ p. 7.1.3-2 第426回ヒアリング 資料2-2「泊発電所3号炉 重大事故等対策の有効性評価 比較表 7.1.3 原子炉補機冷却機能喪失 (SAE713-9 r.6.0)」 ・ p. 2	
221124-13	4	P17) 可搬型温度計測装置の記載が大飯・高浜と異なるため位置付けを確認して、必要であれば適正化すること(7.1.3.1表(5/5))	R4.11.24	回答済	R4.12.19 ヒアリング	可搬型温度計測装置の位置づけを確認した結果、大飯・高浜と同様の記載に変更する。 【変更前】 可搬型計器：可搬型温度計測装置 計装設備：格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度 【変更後】 可搬型計器：(削除) 計装設備：可搬型温度計測装置(納容器再循環ユニット入口温度/出口温度)	第426回ヒアリング 資料2-1「泊発電所3号炉 重大事故等対策の有効性評価 7.1.3 原子炉補機冷却機能喪失 (SAE713 r.6.0)」 ・ p. 7.1.3-16 第426回ヒアリング 資料2-2「泊発電所3号炉 重大事故等対策の有効性評価 比較表 7.1.3 原子炉補機冷却機能喪失 (SAE713-9 r.6.0)」 ・ p. 17	

*：検討状況・方針等のみをご説明の場合は、「一部説明」という用語で識別する。

ID	No	コメント内容	ヒアリング日	対応状況*	回答完了日	回答概要	資料反映箇所	積み残し事項の回答予定時期
221219-08	5	PPT 2 ページ) 原子炉補機冷却機能喪失に関する説明において、原子炉補機冷却機能が図に入っていないことから、BWRの概略系統図を確認の上、記載を検討すること。	R4. 12. 19	本日回答		BWRの概略系統図を確認した結果、第7.1.3.1図の概略系統図に原子炉補機冷却水ポンプ等を記載し、原子炉補機冷却機能が喪失していることが分かるように×で明記しました。	資料4-1『泊発電所3号炉 重大事故等対策の有効性評価 7.1.3 原子炉補機冷却機能喪失 (SAE713 r. 8.0)』 ・ p. 17 資料4-2『泊発電所3号炉 重大事故等対策の有効性評価 比較表 7.1.3 原子炉補機冷却機能喪失 (SAE713-9 r. 7.0)』 ・ p. 18	

*: 検討状況・方針等のみをご説明の場合は、「一部説明」という用語で識別する。